

(様式1号)

導入計画認定申請書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

H25年度認定申請の場合

東広島市長様

申請年度の翌年度が1年目

目標年度は5年後

申請年度・・・H25年度

1年目・・・H26年度

2年目・・・H27年度

3年目・・・H28年度

4年目・・・H29年度

5年目・・・H30年度

(目標年度)

住所 広島市中区基町 10-52

氏名 広島 太郎



持続性の高い農業生産方式の導入計画認定要領2の規定により、導入計画の認定を申請します。

(法施行規則第2条による様式)

基本は5年後の年度。但し作期5年分であるため、4年後の年度になる場合もある。

持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画
(目標：平成 ○○ 年度)

1 持続性の高い農業生産方式の導入に関する目標

経営面積全体について記入

(1) 農業経営の概況

	水田	普通畑	樹園地	その他	合計
経営面積	450a	50a	a	a	500a
労働力	農業従事者 男 1人(うち専従者 1人) 女 1人(うち専従者 0人)				

注 「経営面積」には、借入地面積及び受託地面積を含む。

(2) 作物別生産方式導入計画

		1年目	2年目	3年目	4年目	目標年(○○年)
生産方式導入作物	いね	100a	150a	200a	250a	300a
		400a	400a	400a	400a	400a
		a	a	a	a	a
		a	a	a	a	a
	上段：エコファーマー技術で取組む作付け面積 下段：その作物の作付け面積全体					
	対象品目の作付面積の5割以上をエコファーマー技術で取組むこと					
小計		100a	150a	200a	200a	300a
		400a	400a	400a	400a	400a
その他作物		90a	90a	90a	90a	90a
合計		500a	500a	500a	500a	500a

注1 目標年は、原則として5年後とすること。

2 「生産方式導入作物」の上段には、導入しようとする農業生産方式に係る農作物の作付面積を記入し、下段には、当該農作物と同じ種類の農作物の作付面積の合計を記入すること。

3 「その他の作物」には、持続性の高い農業生産方式を導入しない農作物の作付面積の合計を記入すること。

上段：目標年の数値を記入
()内：現行の数値を記入

(3) 生産方式の内容

作物名	収量	現行の生産方式と導入する生産方式の内容	資材の使用の量・回数
いね (北部 地帯)	現状 450 kg/10a	<p>有機質資材施用技術</p> <p>現状：堆肥 (C/N 比 10~30) の施用 おがくず牛糞堆肥</p> <p>導入：堆肥 (C/N 比 10~30) の施用 おがくず牛糞堆肥</p> <p>堆肥施用時期 11月 土壌診断実施時期 10月</p> <p>毎年実施すること</p> <p>資材名、施用時期、施用方法、たい肥の CN 比、 土壌診断の実施時期等を記入</p>	<p>1.0 t/10a 8.0 kgN/10a</p> <p>(1.0 t/10a 8.0 kgN/10a)</p>
	目標 500 kg/10a	<p>化学肥料低減技術</p> <p>現状：おがくず牛ふん堆肥の施用 コシヒカリ 1号 8 : 20 : 16 30kg/10a 穂肥特 2号 15 : 0 : 15 10kg/10a × 2回</p> <p>導入：側条施肥の導入 (新規導入) スーパー元肥 1号 18 : 12 : 15 23kg/10a おがくず牛ふん堆肥の施用</p> <p>新規導入だけでなく、継続して取り組 む技術も記載</p>	<p>4.14 kgN/10a (5.4 kgN/10a)</p> <p>化学肥料由来の窒 素の総投入量</p>
	5年後の目標。現 状維持もしくは現 状より増加してい ること。	<p>化学農薬低減技術</p> <p>現状：種子消毒剤の利用 ダコレート水和剤 タカレエス液剤 ドクターリゼプリンス アミスターレボ ブラジジヨーカーフロアブル エリジャン EW サブレットフロアブル</p> <p>導入：温湯種子消毒技術 (新規導入) ドクターリゼプリンス アミスターレボ ブラジジヨーカーフロアブル エリジャン EW サブレットフロアブル</p> <p>新規導入技術 がわかるよう に記載。</p>	<p>11 回 (15 回)</p> <p>使用農薬の有効成 分カウント数の合 計を記載</p>

過去5年間の平均

5年後の目標。現
状維持もしくは現
状より増加してい
ること。

- 注1 「収量」については、「現状」に過去5年間における収量の平均を記入し、「目標」に生産方式の導入による収量の目標を記入すること。
- 2 「有機質資材施用技術」、「化学肥料低減技術」及び「化学農薬低減技術」は、それぞれ、法第2条第1項、第2号及び第3号に規定する技術をいう。
- 3 「有機質資材施用技術」には、たい肥等の有機質資材の施用時期、施用方法、C/N比等を記入すること。また、土壌診断の実施時期についても併せて記入すること。
- 4 「化学肥料低減技術」には、導入する技術の具体的な内容、施用する肥料等を記入すること。
- 5 「化学農薬低減技術」には、導入する技術の具体的な内容、実施時期・実施方法等を記入すること。
- 6 「資材の使用の量・回数」には、以下について記入すること。なお、括弧内には現行の生産方式における使用の量及び回数を記入すること。
- ① 有機質資材施用技術においては、1作当たりの施用量及び窒素投入量
 - ② 化学肥料低減技術においては、1作当たりの化学肥料由来の窒素の総投入量
 - ③ 化学農薬低減技術においては、1作当たりの化学農薬の有効成分カウント数の合計

(4) 農業所得の目標

	現 状	目 標
生産方式導入作物	500千円	1,000千円
その他の作物	1,500千円	1,500千円
合 計	2,000千円	2,500千円

現状より減少していないこと。

注 「農業所得」は、販売額から当該生産に要した経費を差し引いた額を記入すること。

2 1の目標を達成するために必要な施設の設置、機械の購入その他の措置に関する事項

(1) たい肥等利用計画

	たい肥等有機質資材の種類	自 給	購 入	備 考
現 状	牛糞おがくず堆肥	t	40 t	〇〇堆肥センター
目 標	牛糞おがくず堆肥	t	40 t	〇〇堆肥センター

注1 「たい肥等有機質資材の種類」には、有機質資材の一般的な名称（例：牛ふんおがくずたい肥）を記入すること。

2 「備考」には、有機質資材の入手先、主な原料等を記入すること。

取り組む技術で必要な機械を忘れずに記載。

新たに導入する機械を記載。レンタルの場合もその旨がわかるように記載。

(2) 機械・施設整備計画

現 状		計 画		
種類・能力	台数	種類・能力	台数	実施時期
トラクター46PS	1			
田植機 (4条)	1	温湯種子消毒器	1機	平成〇〇年〇月
マニュアルスプレッダー	1			
防除機 (ブーム10m)	1	田植機 (6条・側条 施肥機付)	1台	平成〇〇年〇月
コンバイン (4条)	1			
乾燥機 (30石, 25石)	各1			
糞摺り機 (5インチ)	1			

注 「種類・能力」には、機械・施設の一般的な名称 (例：トラクター) 及びその能力の程度 (馬力、植付け条数等) を記入すること。

新たに導入する機械について記載

(3) 資金調達計画

資金用途	資金種類	金額	償還条件等	実施時期	備 考
温湯種子消毒器	自己資金	千円 300		H26年〇月	
田植機	融資	2,000	12回	H26年〇月	
合 計					

- 注 1 「資金用途」には、整備する機械又は施設の一般的な名称を記入すること。
 2 「資金種類」には、自己資金、制度資金 (資金名を併記) その他の区分を記入すること。
 3 「金額」には、補助金等の助成措置がある場合には、括弧書で外数として記入すること。
 4 「実施時期」には、機械又は施設を導入する年月を記入すること。

3 その他

注 導入指針に土壌の性質を改善するために実施することが必要な措置に関する事項が定められている場合は、当該措置の具体的内容、実施方法等を記入すること。

位置図と土壌診断結果を添付すること

[添付資料]

- 1 持続性の高い農業生産方式を導入する作物を栽培するほ場の位置を判別することができる地図 (各ほ場で栽培する作物名がわかるもの)
- 2 持続性の高い農業生産方式を導入する作物を栽培するほ場の土壌診断結果